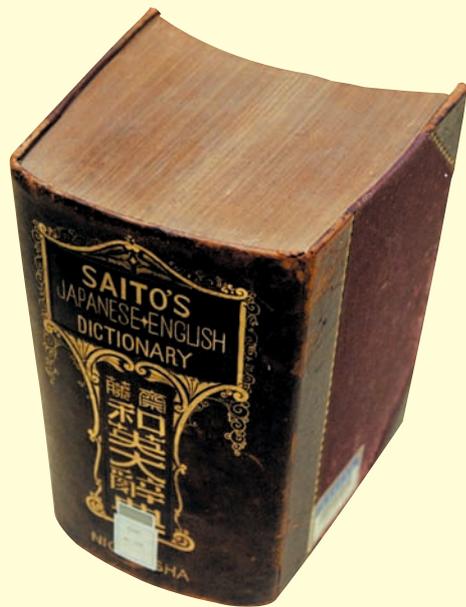


と き 時空をこえて 貴重書の世界

『齋藤和英大辞典』



『齋藤和英大辞典』（齋藤秀三郎 日英社 1928年）

本館は平成16年1月に齋藤秀三郎の研究者、出来成訓氏（神奈川大学教授）から齋藤の著作など251点の寄贈を受け、「出来文庫」として収蔵している。

昭和3年（1928）に世に送り出された『齋藤和英大辞典』——。厚さ14cm、重さ4kgに及ぶ大著で、見出し語約5万、例文約15万を収録している。その威容は当時の類書を凌駕し、「枕版」と呼ばれたという。

著者、齋藤秀三郎（さいとう・ひでさぶろう／1866—1929年）は仙台藩士、齋藤永頼の子として仙台・堤通に生まれ、6歳から英語を学び始めた。工部大学校（現在の東大工学部）を中退し、仙台に帰郷。18歳で最初の翻訳書『スウキントン氏英語学新式直訳』を出版した。明治20年（1887）に「仙台英語学校」を開設、旧制二高、旧制一高などでも教鞭を取った。教え子に土井暁翠、井上準之助、高山樗牛らがいる。明治29年（1896）に東京・神田錦町に「正則英語学校」を開き、以後、ここが齋藤の英語教育・研究の拠点となった。

齋藤は、ただ一人で執筆したとされる『齋藤和英大辞典』の序文に「日本人の英語は、ある意味において、日本化さるべきである」（原文は英語。訳は『齋藤秀三郎伝』（大村喜吉 吾妻書房 1960年）による）と述べている。「武士は相身互い The samurai should feel for each other.」「負けるは勝ち Defeat is sometimes a moral victory.」などと、例文には数多くの慣用表現、都々逸、短歌や俳句等を用いており、文化の融合に心を砕いた齋藤の心が、いまでも鮮やかに伝わってくる。

こ てん いざな 古典への誘い

県内の高校へ巡回展示

今年度から、『源氏物語絵巻』『おくのほそ道』など本館が所蔵する古典文学の複製資料を、県内の高校を対象に巡回展示する〈古典への誘い〉と題した事業を始めました。

最初に開催した宮城県第二女子高等学校では、一般の方にも公開し、生徒たちをはじめ多くの方にご覧いただきました。

熱心に見入っていた生徒たちは、「今、古典の授業でちょうど源氏物語を勉強していて興味がわきました。県図書館までは遠いので、学校にいながらにして見ることができていいですね。」「（資料を）手にとって見たりできるとは思わなかったです。古典というものをとても身近に感じました。」など、うれしそうに語ってくれました。

資料の展示場所となった図書室の司書の先生は、「古典というものを教科書という形でしか知らない生徒たちが、どのような字で、どのような紙に書かれていたかを見ることができ、大変有意義な展示となったのではないのでしょうか。」と、生徒たちの反応を肌で感じているようでした。



宮城県第二女子高等学校図書室・手に取り見入る生徒

図書館からのお知らせ

職員の自主企画展を開催

宮城県図書館では今年度から新たな試みとして、職員が日常業務から得た知識や研究成果などを提供する自主企画展を2階の展示室で開催しています。これからの予定は下記のとおりとなっております。ぜひ一度ご覧ください。

期間(予定)	テーマ(予定)
16.11.6~12.2	号外から見える世相
16.12.5~12.28	文庫本の世界
17.1.6~2.3	街頭紙芝居
17.2.6~3.19 (2.24~3.9は休館)	宮城の野球
17.3.24~4.23	現代用語の基礎知識の変遷

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル『ことばのうみ』は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典『言海（げんかい）』（1889～1891年刊行）に由来する。

第17号 2004年11月発行

編集・発行 宮城県図書館

〒981-3205 仙台市泉区紫山一丁目1番地1
TEL 022-377-8441(代表) FAX 022-377-8484
ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/library/>

デザイン/印刷 株式会社共同印刷



表紙エッセイ/三浦明博さん

みうら・あきひろ。作家、コピーライター。1959年宮城県生まれ。明治大学商学部卒業。仙台市内の広告制作会社に勤務した後、1989年に独立。2002年、仙台市内の東照宮を舞台とした『滅びのモノクローム』（講談社）で第48回江戸川乱歩賞受賞。近刊に『死水』（講談社）がある。

（撮影：但馬一憲/講談社）